

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/24 （8/17との比較）	8/24 （8/17との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	2.26% （▲0.01）	85.40円 （+0.93%）	+2.3% 2018年1Q	1.50%	発表された小売売上高は市場予想通りの結果。NAFTA（北米自由貿易協定）が合意に近づいているとの報道や、原油価格が上昇したことなどを受け、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	経常収支やGDP（国内総生産）などが発表予定。GDPの発表は、中銀の秋の追加利上げの判断に影響を与える可能性が高く、結果には注目。債券・為替市場はともに底堅い推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	10.58% （+0.41）	27.09円 （▲4.15%）	+1.2% 2018年1Q	6.50%	発表されたIPCAインフレ率は市場予想を上回る結果。10月の大統領選挙をめぐり、世論調査で支持率首位のルラ氏が収監されていることなど、先行き不透明感が高まっていることから、レアルは対円で下落。国債利回りは上昇。	経常収支やGDPなどが発表予定。財政政策の行方がカギを握ることから、大統領候補者の財政政策方針には注目。引き続き大統領選挙をめぐり先行き不透明感などから、債券・為替市場はともに上値の重い展開を予想。
	Ba2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.78% （▲0.06）	5.88円 （+0.56%）	+2.6% 2018年2Q	7.75%	発表されたGDPは市場予想を下回る結果。米国とのNAFTA再交渉をめぐり、進展が見られたことなどから、合意の時期が近いとの見方が広がり、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは低下。	特段重要な経済指標等の発表はなし。NAFTA再交渉の合意が今週中にもまとまる可能性があることなどから要注目。妥結に至ればメキシコペソには追い風となることから、為替市場は底堅い動きを想定。
	A3	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気安定	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/24 （8/17との比較）	8/24 （8/17との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.54% （▲0.01）	81.52円 （+0.85%）	+3.1% 2018年1Q	1.50%	特段重要な経済指標等の発表はなし。豪政局に振らされる展開となった中、ターンブル首相が辞任を表明し、モリソン氏が新首相に就任したことなどから、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。	住宅建設許可件数などが発表予定。モリソン氏が就任したことにより、豪政局のニュースが豪ドルを動かす可能性は低い中、鉄鉱石などの資源価格が足元で低迷していることなどから、為替市場は上値の重い展開を想定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.57% （▲0.00）	74.24円 （+1.22%）	+2.7% 2018年1Q	1.75%	発表された小売売上高は市場予想を大幅に上回り、貿易収支も赤字幅が市場予想を下回る結果。海外市場で米ドルが弱含む中、ニュージーランドドルは対米ドル、および対円で上昇。国債利回りは概ね横ばい。	住宅建設許可のほか、企業や消費者の景況感を示す指数などが発表予定。海外市場での米ドル安地合いがニュージーランドドルの下支え要因となるものの、材料難でもあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.74% （+0.05）	13.37円 （+2.29%）	+3.3% 2018年2Q	0.50%	発表されたGDPは市場予想通り、失業率は市場予想を上回る結果。また、石油産業の設備投資計画は、前回比で良好な見通し。海外市場の影響を受けやすい地合いの中、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数や小売売上高などが発表予定。ノルウェーの景気は底堅い状況が続くと思われるものの、不安定な海外市場が上値を抑える要因となり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		8/24 （8/17との比較）	8/24 （8/17との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	8.33% （▲0.13）	7.79円 （+3.21%）	+0.8% 2018年1Q	6.50%	発表されたCPI（消費者物価指数）は市場予想通り、コアCPIは市場予想を上回る結果。同国の土地政策をめぐる問題が浮上したものの、CPIが着実に推移していることなどから、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	PPI（生産者物価指数）や貿易収支などが発表予定。CPIに上昇が見られる中、先行指標となるPPIの動向には要注目。目新しいリスク要因が少ない中、特段の材料がなければ、為替市場は上値を試す可能性も。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
インドネシア 	BBB-	7.82% （▲0.01）	0.76円 （+0.50%）	+5.3% 2018年2Q	5.50%	特段重要な経済指標等の発表はなし。財務省が5年以内に国債の海外保有率を半分にする意欲を示したことなどから、国債利回りは小幅低下。リスク回避的な材料がやや落ち着いていることなどを背景に、ルピアは対円で上昇。	特段重要な経済指標等の発表はなし。28日の国債入札において、投資家のインドネシア国債の需要度合いに注目。トルコ情勢など外部要因に影響を受けやすい展開が想定される中、為替市場は引き続き底堅く推移する見込み。
	Baa2	 金利上昇		 景気拡大	 利上げ局面		
インド 	BBB-	7.94% （+0.02）	1.59円 （+1.08%）	+7.7% 2018年1Q	6.50%	特段重要な経済指標等の発表はなし。対内要因はほとんどなく、対外要因に左右される相場の中、原油価格が上昇したことなどから、国債利回りは小幅上昇。インドルピーは対円で上昇。	GDPなどが発表予定。双子の赤字や総選挙に対するの不透明感も漂うことから、結果には注意が必要。また中銀が為替介入額を減らしている傾向にあることなどから、為替市場は下値を試す可能性も。
	Baa2	 金利上昇		 景気回復	 据え置き局面		

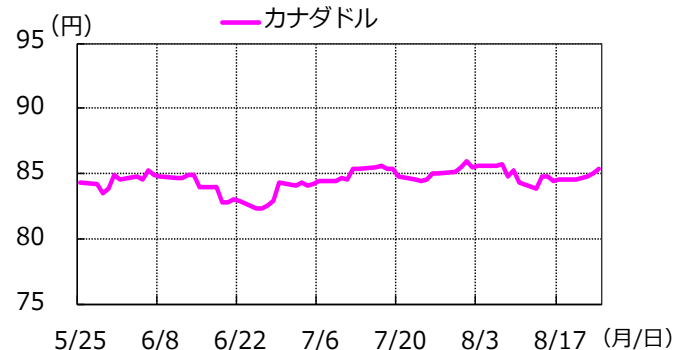
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

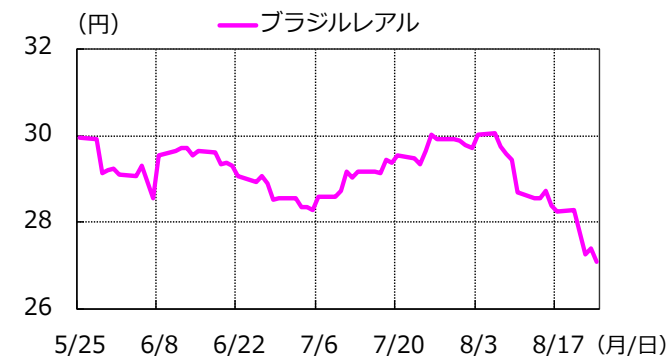
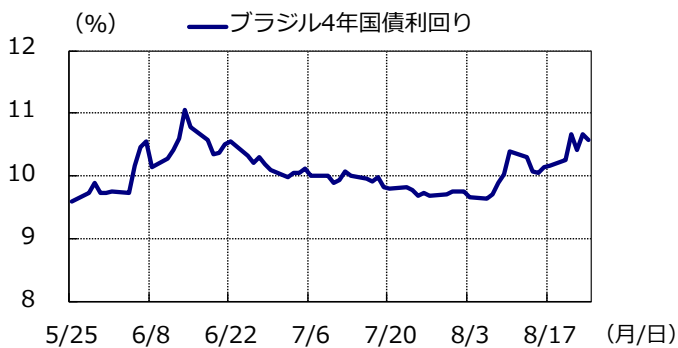
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/5/25～2018/8/24

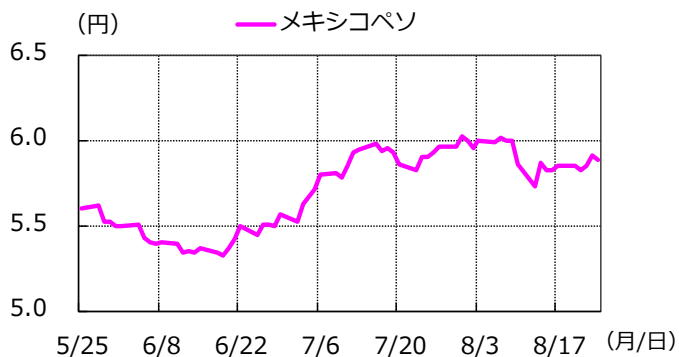
カナダ



ブラジル



メキシコ

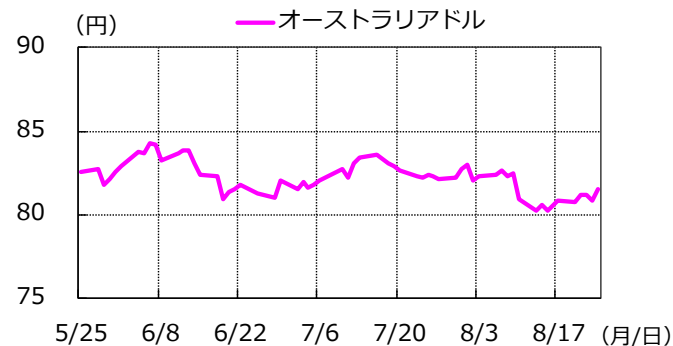
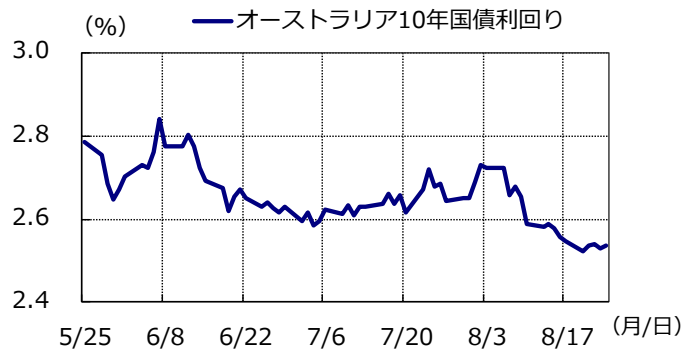


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

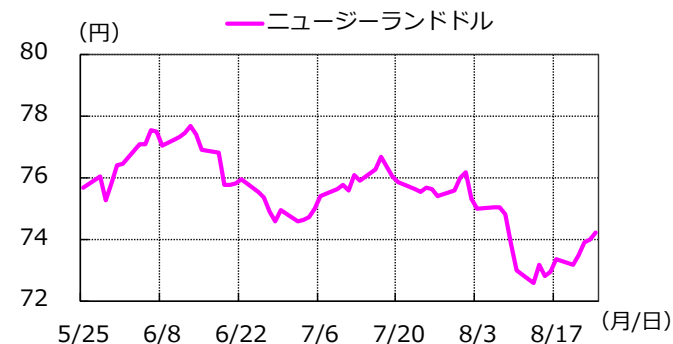
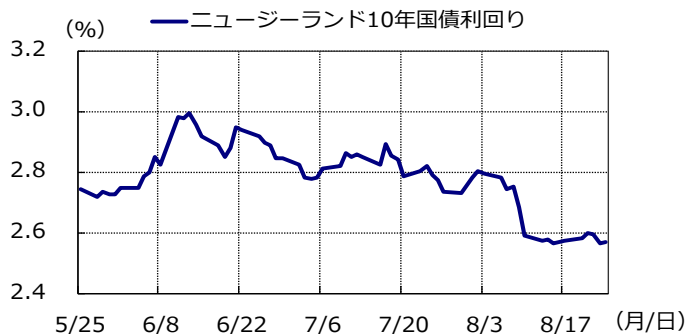
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/5/25～2018/8/24

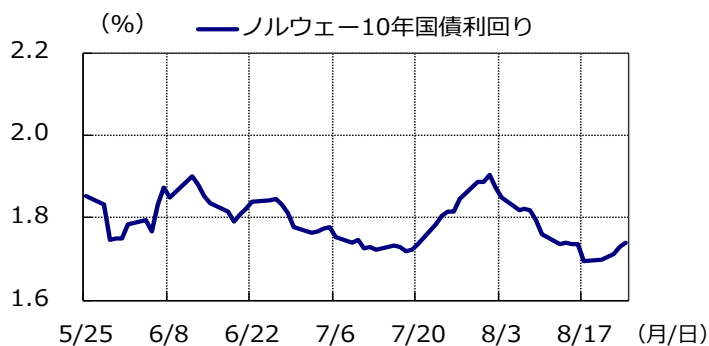
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

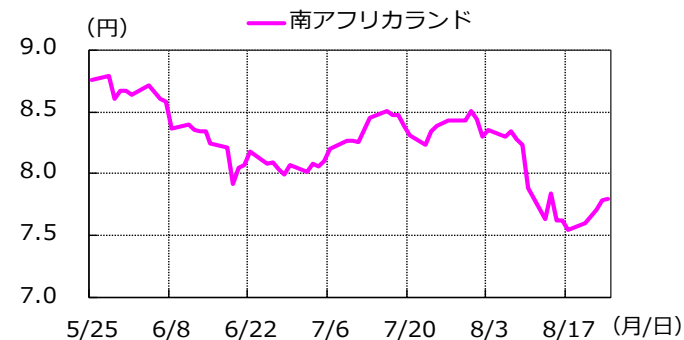
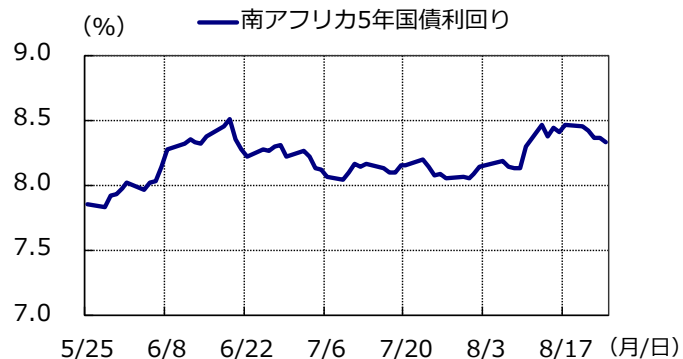


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

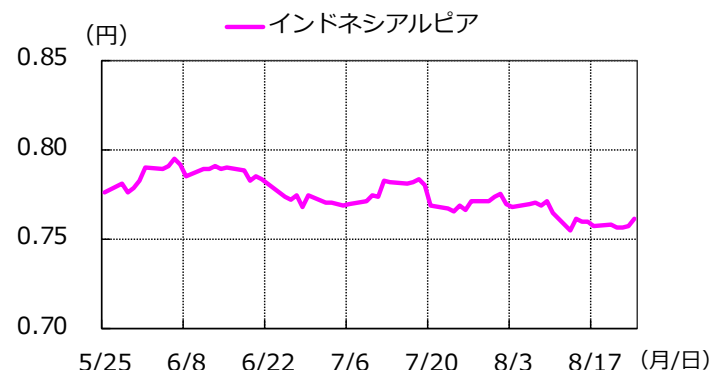
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2018/5/25～2018/8/24

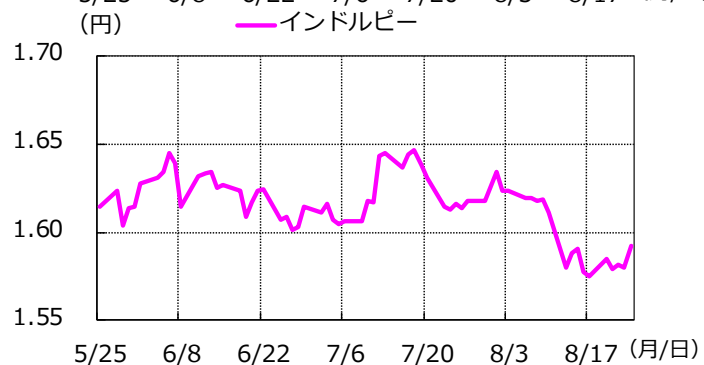
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。